

東京歯科大学同窓会会報

東京都千代田区神田
三崎町一ノ七

発行所

東京歯科大学同窓会

編集兼発行人 加藤倉三

電話 九段(33)8446 (代)

本会主催

夏期講習会開催

本年度はX線診断学・口腔組織学
矯正学の三科目

御申込みは八月五日までに

本会主催、母校共催の下に行われる夏期講習会は、昨年新装成った母校に開催され、参会各位の好評を博した。
本年も夏期講習会を開催することとなり、X線診断学、口腔組織学・矯正学の三科目の講習が行われることに決定した。

夏期講習内容の御紹介

X線診断学

講習は各科目、三日間で、内容の詳細は下段の御案内を御覧願ひ度い。

受講希望の方は、希望科目明記の上、八月五日までに本会事務局宛御申し込み下さい。一科目一〇乃至一五名の予定で、申込み先着順に受付

け、人員超過の場合あるいは人員過少の場合は御断りする場合があるかも知れないので御早く申込まれる様御願ひする。受講料は一科目四千円。一人で二科目、三科目の受講も可

口腔組織学

実施項目

- (1) 日常臨床に必要な歯牙組織並びに歯牙周囲組織の概略について細胞個々の形態的研究の初歩として生鮮な臓器、組織から得た材料についていわゆる「生の標本」を調製して光学顕微鏡により鏡検実習を行う。
- (2) 永久標本の作り方技術の習得のためのパラフィン包埋、薄切、染色の実際を行う。
- (3) 既成の各種永久標本について鏡検実習を行つて、口腔組織に関する知識を深める。
- (4) その他特に希望する事柄について適宜申し出でられ度い。

八月十七日(月)

午前 生の標本
舌、粘膜、腸上皮、横紋筋、その他

午後 永久標本の作り方
パラフィン切片(貼布)

ツエロイジン切片 (H・E染色)

八月十八日(火)

午前 生の標本
血液(人・ギームザ染色・蘇・無染)

午後 永久標本の作り方
パラフィン切片 (H・E・染色)

日常臨床に必要な歯牙組織並びに歯牙周囲組織の概略について

〇歯牙におけるラヂオアイソトープの応用

〇歯牙の硬度について

〇歯牙の性別

八月十九日(水)
各種永久標本の観察

凍結切片標本の作り方
硬軟両組織研磨切片標本のつくり方
その他
講師 松井教授、見明助教授、木村講師、高橋講師、天野講師
島田助手、東助手

矯正学

矯正の理論と実際とについて、これから矯正を始める方、多少経験ある方を対象として指導する。
八月二十一日(金)

午前 顔貌の診断
午後 歯槽測定法 附、矯正治療後の経過について

八月二十二日(土)

午前、午後 環境調製法、唇、舌

側装置の調製法、(模型上における実習)
八月二十三日(日)

午前 臨床実習(患者について環境調製、結紮法、その他について)

午後 機能的前矯正装置の調製法
床矯正器の作製法

現在当教室で使用している東園型矯正ボックス並びに器械、材料の紹介必要に応じては、販売致します。持参すべき器械(実習に必要な)矯正用器械と補綴の器械一部、材料は当方で用意致します。
(もし矯用器械を、お求めになりました方は、前以つて同窓会に御連絡下さい)

模写一組(小児)

講師 齊藤教授、山本教授、大内助教授、田所講師、他医局員一同

御案内

来る八月二十六日欧米視察に出発される大井清教授、米国齒科医師会の招により松宮誠一教授並びに両教授と同行海外に出発の小室史郎君村瀬正雄君佐藤貞勝君以上五氏の敬送会を左記次第により開催致します。

多数会員各位の御出席を御待ち致します

一、日時 八月十五日(土) 午後五時

一、会場 新橋第一ホテル

一、会費 壹千五百円

追而準備の都合上御出席の御申し込みは八月五日までに東京都千代田区神田三崎町一ノ七 東京歯科大学同窓会大井・松宮両教授他三氏敬送会宛御申し越し下さい。

会員各位
会頭 西村 豊治

去る六月二十一日(日)

第七十五回例会開催さる

去る六月二十一日(日)午後一時より母校において、本年度の六月例会第七十五回例会が開催された。定刻一時、中村幹事司会の下に開会。西村会頭より「御来会を感謝する。」なお先般の参院選挙に關し、鹿島俊雄君後援会の責任者として皆様の熱誠溢るゝ御後援に敬意を表する」との挨拶があり、高添助教の「スエーデン留学より帰って」の講演に移った。「昨年八月から今年一月までストックホルムに参りましたが出発に際する御好意に先づ御礼申し上げる」と挨拶され「先生方とスエーデンを中心とした小旅行に出かけました」と同助教が留学したスエーデン王立歯科大学歯科学教室での研究内容を始め、滞欧中の数々の見聞談を、美しいカラスライドの映写と共に繰り掛け参会者に数々の感銘を与えた。

「アメリカには矯正の専門家がいますが、日本では歯科医であれば誰でも矯正の患者が来れば矯正治療を行わなければならない。それでは患者が来たならばどうしたら良いか。四十年前には歯を動かすことが矯正だと覚えたが今日では左様でない。自分では一生懸命矯正したつもりでも方針が誤つて、戻つて仕舞えばこれは矯正ではない。歯を動かすことはそんなに難かしいことではない。昔は歯を動かして咀嚼出来るようにすることが矯正の様であつた。アングル先生がそう思つたかどうか分らないが、本によるとそう思つてゐる。歯を動かすことは手段であつて、動かして安定するのは矯正である」と平易な體やかな口調で参会者を引つ張つて行かれる。先づ矯正治療の目標とする所を説明され。

「これに持つて行くには、どうしたら良いか。これには第一番にどこが悪いのかと云うことが判らねばならない。現在どんな不正なのか。出ている歯が悪いのか引つ込んでゐる歯が悪いのか、正しい位置を決めなければならぬ。正しい、悪いと云うのは自己の医学的知識を以つて判断する所であり、各人によつて異なる。生物を取り扱つてゐる以上、今日の科学では数字では決め得ない。十二才以上の歯列に就いてはまア判るが十二才以前の矯正、一番大事な小学生のアーチで、どの歯はどこにあればいけないかと云うことはあまり分つてゐない。正しい診断が下つていけば、日に日に正しい方向に歯を動かして行ける。私は一つの物指しで比較的新しく「現在の不正」を診断してゐる」と、平易なうちに現代矯正歯科学の精髓が述べられて来る。現症の診断から、不正咬合の原因、不正咬合の性質、処置、予後と約二時間に亘つて極めて有益な講演が行われた。

分の話を取り纏めた次第です」と温顔をほころばされた。
続いて榎本名譽会頭の挨拶があり四時三十分盛會裡に閉会した。

水野銑太郎君

厚生省を退官さる

二十四年の長い間、社会保険の行政方面に活躍を続けて来られた水野銑太郎君(昭和二年卒)は六月十五日付を以つて厚生省を退官された。今後は社会保険診療報酬支払基金本部審査連絡室に勤務されることになった。

同氏の永年に亘る御労苦に対し感謝慰勞の計画案が本会においても練られてゐる。何れ具体化の際には、會員各位の御賛同を得たいと考えてゐる。

病牀に淋しい

風間又四郎先生

五月末より慶応病院に入院

長い間母校に勤務され、その雄弁と名筆を誇られ、昭和年間の各クラス会の名付け親であり華やかだつた口腔衛生部育ての親の風間又四郎先生は母校を退りぞかれた後、東京都庁にお勤めになり、その後、数回ライオン歯科株式会社の囑託として「口腔衛生」の道を一すじに歩まれて来られた。

先年令夫人は御死去、後を追うように、同窓彦坂清君の許に嫁がれたお一人のお嬢様も他界され、身寄りの少ない淋しい生活に委ねられた先生は本年五月三十一日、膀胱腫瘍と云ふ診断のもとに慶応病院に入院され六月十七日、手術を受けられ拇指頭

大の腫瘍二ヶを摘出された。七月五日頃から漸くベッドに上半身を起して食事を摂られる所まで恢復されたが、梅雨あけの酷しい暑さの中で、同室五人の患者さん達と枕を並べられ御苦勞の多い療養を続けておられ

先生に命名して頂いた各クラス毎に、先生をお慰めする計画が進められてゐる模様である。一日も速かな御全快をお祈りする。

なお先生の病室は慶応病院に号病棟三〇三号室。

盛会だつた

第一四八回

東京歯科大学々会

本会の六月例会の前日、六月二十

御知らせ

学校法人事業部では懸案の保険代理業務を正式に開始しました。同窓、父兄並びに教職員各位は事業部を通じて保険に加入され大学の運営に御協力下さい。

生命保険

三井生命保険相互会社

同

千代田生命保険相互会社

火災保険

大正海上火災保険株式会社

(右保険事務は大学調査部で取扱いますから御連絡下さい。直ちに専従職員を派遣します。)

学校法人東京歯科大学保険事業部

母校人事

六月九日付を以つて左の諸君の人事が発表された。

非常勤講師 山本勝一(病理) 助 手 佐藤健二(生理) 武田安子(生理)

アメリカ歯科医師会百年祭に

大井、松宮両教授本学代表として出席

アメリカ歯科医師会創立百年祭が来る九月七日から十九日まで、第四十七回国際歯科連盟年次総会と合同のもとにニューヨークにおいて華々しく挙行されることになっている。この世紀の大祭典に対し、本学からは大井、松宮両教授が代表として列席することに決定した。



大井教授は、この後アメリカ国内の諸大学を視察し

てからさらに英、独、仏、デンマーク、スエーデン、ノールウェー、その他ヨーロッパ各地を歴訪し、ついでパキスタン、インド、東南アジア諸地域を視察したのち、本年末頃帰朝の予定である。



松宮教授は、わが国からの唯一の特別講演者として

アメリカ歯科医師会より招待を受けたもので、同国滞在費は全額とも先方が負担することになっている。同教授は、十一日の国際歯科教育及び研究会議において、ヘルド教授（スイス）、バックエルダークス教授（オランダ）、キャランザ教授（アルゼ

ンチン）、ケーゼル教授（米）及びバックエンバーガー博士（米）の各特別講演者とともに、「日本に於ける最近の歯科学術研究の発達」と題する発表を行うほか、十四日の世界歯術講演大会には、英、独、日、仏、ニュージーランド、デンマークなど八ヶ国から招聘された学者八名の一人として、同病理学教室が世界に誇る業績、「感染根管治療の基礎研究」についてスライド映写のもとに発表を行う。

松宮教授は、その後大井教授とともに、英、独、仏、デンマークなどを視察後、北極経由にて十月末頃帰朝の予定である。なお、本学衛生学教室講師佐藤貞勝博士も同教授らと同行し、やはり北極経由にて帰朝する。

また、本学同窓である東京女子医科大学村瀬正雄教授は、日本歯学会議代表として百年祭に参加したのち大井教授らと共に、全世界各地を歴訪し、やはり本年末頃帰朝する。

さらに、本学同窓大阪大学歯学部講師小室史郎博士も、前記諸教授らと共に海外各地を視察する予定である。

なお、大井、松宮、村瀬各教授らは、八月下旬に措つて羽田空港を出発するが、その時日未だ確定に至っていないが、恐らく二十六日と予定されている。

田熊助教帰国

母校病理学教室田熊助教は約二ケ年に亘りワシントン米国立衛生研究所の招きを受け同所にて研究に従事していたが去る六月一日、夫人を始め御家族同伴で、元気に帰国され、左の如き一文を本誌に寄せられた。

御あいさつ

大変ごぶさたしておりますが、同窓のみなさまその後お元氣にお過しのことと存じます。

さて小生滞米留守中は、公私にわたり御やつかいになり厚く御礼申し上げます。お蔭さまで任務を果し、去る六月一日家族とともに無事帰国いたしました。ここに日頃の御厚誼を謝し、御報告かたがた御挨拶申し上げます。

母校病理学教室 田熊 庄三郎

同窓のみなさまへ。

愛知県東三豊徳会

大井清詞教授

壮行会の記

本年の梅雨はドライ型と云はれる通り、此の日も快晴で農家にはお気の毒ではあつたが、我々には幸でした。

六月二十八日に名古屋に於いて愛知県歯科医師会主催の学術講演会講師として大井教授がおいでになることは早くより承知しておいたが心待ちにその日を数えておりました。その前日六月二十七日郷里のわが豊橋に途中下車される旨御連絡を頂いたのが六月二十四日。そのお便りにより八月下旬外遊される由承り会長西

村植祐先生に御相談申し上げ俄かに大井先生壮行会を開催する運びとなり東三河全会員に連絡いたした次の如き近状にみる盛大なる会合となりました。それからその模様をお知らせいたします。

会は本会としては異例の洋式により豊橋市の一流レストラン富士三階ホール（勿論冷房完備）に午後六時全員集合し大井教授の御来賓をお待ちする。メインテーブル中央に主賓大井教授の左右に西村会長、曾田副会長、岡田、岡本各地区幹事が席を占め、その他のテーブルには全く自由に然る何の遠慮もなく夫々に席に着く。豊橋地区の当番者伊藤哲君の司会で型通り西村会長の壮行の辞を以て開会す。

西村先生はその挨拶の中で開口一番先に出された言葉は鹿島選挙に同窓のお互が真に一致団結し勝利に導いた努力に對して心からの謝辞であった。序いで大井先生の外遊が今日実現となつたのは寧ろ遅い位ではあるが、諸般の事情が海外視察旅行の妨げとなつてゐたであらう。然し幸にして約二ヶ月後には鹿島立になれる手続中と承るから、切實御自愛の上充分所期の目的を果されますよう会員一同と共に祈いたします。壮行の詞を結ぶ。ついで静かに血脈親父に似て来た動作で大井教授立たれ、次の如く謝辞を述べられた。

現行選挙法によれば本人より文書により一人一人に意志表示が出来るから馬鹿な輩になり代つて今回の選挙に對し全ゆる障壁と困難を克服し一途に戦を勝抜いて呉れた同窓各位に心から深甚のお礼を申し上げます。次に旅行のコースと同行の人々の紹介があり切角諸君の期待に副ふべく勉強してかへりたいと力強く詞を結

ばれる。司会者伊藤哲君の指名により曾田副会長の音頭で大井先生の健康を祝ひ長途の定泰を祈つて乾杯しデザートコースに入る。

硝子窓の外は全くの夜に入り辺りのネオンの赤青黄の燈が夜空に映へ美しく輝く。ビールにお酒、飲めない方々はジュース（女性は居ないが）斯様な飲料水を必要とする会員もある。云つた具合に細い所迄配慮は勿論司会者の用意周到のおかげ。宴が進むに従ひ誰云ふとなし六月選挙の想ひ出話苦心談に会員夫々の感想の発表があり、政治と生活が直結してゐる姿を浅々と味つた。飲みものも大分満腹されたと思はれる頃会員藤城武君提供による8ミリ映画（勿論天然色）の観賞に入り此の間約四十分。夫々の場面に会員の各々が十二分に楽しむものばかり。ヤンヤの拍手に和やかさは一段と増すばかり。点燈すれば時計は十時近くを指してゐる。

冷たいコーヒ、アイスクリューも運ばれたから指名により辻村博士君の音頭で母校の校歌を大合唱して閉会になる。前述の通り盛大且和気あい／＼の会出席者は次の三十名度々本会の報告の中で申述べる事ですが、大井教授の人徳の深さを物語る一駒でもある。

出席者名簿（順不同）

西村植祐、岡田門美、曾田真一、岡本保祐、大沢賢彦一、山本弥市、藤城武君、伊藤哲、山本卓、羽田野義彦、山田浩司、尾崎博、辻村博士、伊藤一、山居喜一、高田敦孟、加藤一郎、山本保吉、山本一成、鈴木信義、丸山茂、伊藤寿久、藤城武、白井智、神山英夫、西村秀祐、石田礼一郎、彦坂武、来賀大井清詞教授、大井一正（母校助手）

学位受領者紹介

榎本 赴君



君は千葉県立東葛
節中学校卒業後本
学に入學昭和十一
年卒業、直ちに東

京あそか病院歯科に勤務され、故遠藤至六郎教授の薫陶を受けられたが昭和十三年応召となり解除後千葉県柏市の自宅で開業されたのも東の間の再度の応召に廿一年まで外地に転戦された。帰還後再び開業され現在に至っている。君の人格と、昼夜を分たぬ刻苦勉勵により將に門前市をなす盛業振りである。

昭和二十八年、大井教授より日大歯学部部長に推薦を受けられ、生化学教室に入室、菅野次郎教授指導の下に、エビデヒドロコレステリンと歯槽膿漏、歯齦炎等に関する研究をまとめ学位請求論文として鹿兒島医科大学に提出、本年一月十六日同大教授会にて、主査副島侃二教授、副査大保不二夫教授のもと満場一致通過二月十一日附を以て芽出度く医学博士の学位記を受けられた。

榎本君は歯科医業の在り方に関し真摯な研鑽と不断的努力を傾注し、同君開業の柏市に居住される福島学長も君の精進と輝いた実績とに対し常に絶賛しておられる。

学生時代の榎本君はハーモニカ部の名指揮者として広く令名を馳せ友人との交際は誠に円満であり、千葉県東葛北部歯科医会長、千葉県歯科医師会理事、同県歯科医師会国民健康保険組合理事等を歴任のかたわら柏市野球連盟副会長等に就任郷土のため活躍して居られる。御家族は

御両親、令夫人、二男二女の恵まれた御家庭である。今後の御発展を祈る。(加藤倉三記)

福岡 明君



君は大正十五年三月
下町情緒豊かな浜
町河岸をの先き
にした日本橋両国

生れの生粋の江戸っ子である。京北実業学校を首席で卒業され、昭和二十三年母校を卒業。在学中から特に細菌学教室にて米沢教授の薫陶を受けられ、自から卒先口腔衛生研究会を組織し、衛生部の再建を実現し、他校の歯科学生を起合しての街頭口腔審査の実施等に、ひたむきな実行力と、優れた社交性の片鱗を示していた。

母校卒業後、慶大歯科に入室、岡田満、正木正雨先生の指導を受けられ医学部助手に任ぜられ、同教室在籍のまゝ昭和二十四年十一月日本橋茅場町の現住地に開業された。日を追つて股腰を極める臨牀生活の中にも向学心に燃える同君は二十一年十一月母校生理学教室に入室され、伊藤秀三郎教授の指導の下に東京学芸大学心理学教室にて、同大並に本学講師齋藤義夫博士の御援助を受け実験を行い、この研究の成果たる「人間における運動条件反射の研究」第一信号系及び第二信号系条件反射の比較」を主論文として他七篇の副論文と共に大阪医学部に提出、吉井直三郎教授主査、久保秀雄教授副査の下に満場一致通過本年二月六日付を以て芽出度く学位記を授与された。医業頗る盛大で御両親健在、美しい令夫人との間に二男一女の子宝に恵まれ極めて幸福な御家庭である。区歯科医師会の理事

としても御活躍中、将来益々御発展を祈る。謹祝。(加藤倉三記)

杉田 長男 君



北海道帯広の産
昭和十七年九月卒
業、翌年四月母校
副手として保存学

教室に勤務されたが、昭和十九年九月応召のため退職復員後は厳父杉田末吉氏の下で診療に従事されていた。昭和二十六年十月感ずるところあつてか母校生理学教室に研究生として入室、伊藤秀三郎教授指導のもとに学位論文に専念されることになった。この間、最愛の妻子を北海道に残され、単身上京して、文字通り昼夜の別なく異常な努力をされた。本人の努力もさることながら、伊藤教授の暖い指導と御家族一同の理解ある応援によつて昨夏論文完成、提出までに漕ぎつけられた。昭和三十三年十月十二日日本医科大学教授会において、戸塚武彦教授主査のもと慎重審査の結果、その研究業績を認められ、満場一致をもって教授会をめでたく通過、翌十一月七日、榮ある学位記が授与された。心から御祝申上げる次第である。

なお、新博士は帯広市東一条町南十丁目一番地の自宅で北海道の杉田といえは歯科界でだれしらない者のない厳父末吉先生と共に盛大に開業されしている。趣味は音楽そのドラマは卓越している。(長谷川正康記)

主論文
電解質及び水分の消長からみた
Metallochlorophyllin の生理学的作用機序について
第一篇 血清電解質に関する検索

第二篇 血清及び組織水分に関する検索

参考論文八篇略

鈴木 耕一 君



スズキ・コウイ
君は、この十月
で満三十九才。秋
田県は米代川口の
能代市大町三十一

を本籍地及び現住所とし昭和十七年秋、母校卒業と同時に厳父で同窓の長老、故盛氏の経営する診療所で臨床に従事されて今日に及んでいる。同君は在学中より向学心に富み、常々私の教室に出入し、唾液水素イオン濃度に関する基礎的研究と題する立派な論文を完成し卒業論文賞を受賞されている。又開業の傍ら果社会保険審査委員、社会保険協力委員長、技工師試験委員、果歯科医師会理事等の要職を務めつゝ、これまで数編の臨床論文を完成公表しておられる。厳父が建築した診療所は昭和二十四年の能代大火で灰燼に帰したが同年現在地に病床五ベッドをもつ八十坪の診療所を再建し、現在医員四名を含めて十七名の従業員を擁して臨床に挺身しておられる。同君は在学中より私をしたつて公私何かと交渉が多く面倒を見ていたのであるが、先年いよいよ意を決して当教室入りなされ学位論文に精進されたのである。かねて提出中の論文は、金沢医大教授会に於て、主査友友次教授のもとと昨年十月廿日満場一致通過、越えて十一月十五日付榮ある学位記を受けられた。

新博士の御家庭には圭子夫人との間に一男二女あり、至極御円満の様子。願わくば御多忙の体を充分労られ乍ら現在の成功に安んずる事なく、益々研鑽精進せられん事を願う。

お祝の言葉としたい。(米沢和一記)

○主論文(一編)

回帰熱スピロヘータの形態に関する螢光顕微鏡的研究
十全医学会雑誌六〇巻九号(昭和三十三年九月)

○参考論文(十編)

略

深沢 一祐 君



深沢一祐君は明治四十年静岡県庵原郡富士川町中之郷に生れ大正十三年慶應義塾普通部を卒業し十四年東京歯科大学に入學昭和四年に母校を卒業後同級のグループであつた榎井六郎君と共に僕が所て臨床に専念し特に補綴学に関心をあつたので僕と一緒に大いに研究したものである。昭和八年に静岡市に開業されたが間もなく応召、火災被災と云ふ人生で遭遇する最悪の連続であつたが深沢君はこれに屈することなく目的に向つて勇猛邁進された。昭和廿一年最も条件の悪かつた時期に現在の富士市加島町五六に診療所を開設したのであつたが天は此度は君に大いに幸いして日に増し隆盛を極め今日も尚之が続いて居る。

然るに同君は生来向学心の旺盛な人であるので次の段階である学位獲得に意を決し多忙なる開業の傍ら万難を排して母校の米沢教授の研究室に入局遙々静岡県から一定の日をきめて東京へ通つて研究に専念されたのである。その努力は遂に報いられた論文を京都府立医大の鈴木成美博士の許に提出した所同大学の教授会では満場一致で論文が通過し本年四月二日榮ある医学博士の学位記が同氏に授与されたのである。

此事を聞いた私としては深沢君が

概一四六を本籍地とし、昭和十四年母校入学、同十七年卒業と同時に海軍将校に任ぜられて、大岡に昇進、同二十一年復員間もなく、同二十二年東大医学部法医学教室で九カ月間研究に従事されている。同二十三年現住所たる成田市成田六九三に南科診療所を開設され、同時に成田の市議にもなられ、副議長もつとめられたのである。先年、感ずる所あつて私の教室に入り、再び研究に従事される事になり、精進の甲斐あつて予ねて提出中の論文が、去る二月十六日の金大医学部教授会で、主査谷友次教授のもと満場一致通過し、越えて三月十二日付榮ある医学博士の学位記が受与された。

新博士は、井吉さやかに、奇策從横でありながら、実行の士で、そのどつしとした、風格は、エネルギーに君を如実に現出している。君の母校卒業論文は「局所麻酔薬注射時色素消滅添加の意義に関する考察」と言つた立派なもので同級生の親友、鈴木耕一君の卒論共々私の指導であり、当時共々、授賞せられた。また今般私の教室から提出した論文が、金大で両君のもの相前後して通過したのも奇しき因縁と言わなければならぬ。

新博士は、成田にその人ありと言われた、同窓で、県会議長であつた故萩原村次先生の甥に当り、開業の傍ら七つの前職と四つの現職とをもち、生れ乍ら、医政家の素質に恵まれておられるようだ。ご両親とも八十才の高齢で、ご健在。総子夫人との間に一男二女あり。趣味は釣、花作り、絵画など。ご一門には千葉市の前同窓会支部長の武藤鎮夫長老や、今春母校卒業のご秀才の甥、池田漢君など歯科医師が多いようだ。今般

推されて奥歯医会専務に就任された。歯界の爲め新博士のご健闘、ご発展を祈つてやまぬものである。慶祝。

(米沢和一記)

○主論文(一編)
乳酸桿菌の免疫反応に関する研究
十全医学会雑誌第六十一巻第一号
昭和三十四年一月
○参考論文(八編) 略



堀 春 昌 君

堀君は佐賀県出身昭和十六年三月九州歯科医専卒業同年四月東京鉄道病院歯科に奉職二十

十年八月四日鉄道病院に転勤二十二年十一月多岐津鉄道病院歯科院長に転出、内地留学を命ぜられるに当り、とくに本学を選び口腔外科学教室に専修科生として入院、かたわら私の教室に見学に通われた関係から、二十四年鉄道病院を退職され高杉市に開業されるに及んで、更めて私の教室に専攻生として入室された。

千里の道を遠しとせず通学された真摯なる向学心と、回転滑脱な性格とはたちまちに教室員の衆望を集め研究も順調に進み、遂に昨年六月研究が完成したので、これを纏め慶応義塾大学医学部に学位論文として提出、小林忠義教授が主査となられ、島田教授(外科)岩原教授(整形外科)両副査とも慎重審査を重ねて居られたが、本年一月十二日めでたく同教授会を満場一致にて通過、二月二十日付にて榮ある学位記を御受けになった。誠にめでたき限りである。

遠路克共通学された努力に対し満腔の敬意を表するとともに衷心より祝福申し上げる次第である。

前記のように資性温厚に加えて円満なる人格を反映して本学同窓会香川県支部の重鎮をなし、十指に余る名譽職を担い衆望を集めておられるうえに、さらに榮譽を勝ち得られ、今後の活躍誠に期待して待つべきである。願わくば一層健康に留意せられ存分に天分を発揮せられんことを。

(松宮誠一記)

主論文
窩洞形成後に認められる歯髓变化の推移に関する病理組織的研究補遺とくに臨牀成見との関係について
○参考論文
乳歯々髓炎の病理組織的研究他三



中 村 正 君

中村君は東京は神田の生れ、戦雲急を告げていた昭和十九年京華中学を卒えて母校に入学翌年七月疎開先の蕪山において休戦を迎えた悲憤クラス。二十三年三月母校卒業とともに父君を援けて患者の診療に従事しておられたが、青雲の志は、単なる一開業医たるに忍びず、去る二十八年松宮教授の紹介のもとに母校生理學教室伊藤教授に就いて口腔生理學の研究に従事されることになった。再来満五ヶ年間に診療を終えて夕刻より毎夜終電近くまで不馴れた研究に没頭、涙ぐみしか精進を続けられたがその効空しからず遂に立派な業績を完成せられ、六編に及ぶ参考論文を副えて東京女子医科大学に提出学位を請求中のところ、筑島高教授主査のもとに、村

瀬(歯科口腔科)松本(病理)両教授副査となられ慎重審査の結果、その優秀性が認められ、本年五月満場一致をもつてめでたく同大学教授会を通過、越えて七月十一日付にて輝かしき学位記を受領された。

誠に慶賀の至りに堪えない。資性稀に見る温厚なる紳士型、この人のどこにあんな燃ゆるが如き熱意が潜んでいるかと思ふ程の熱血漢である点、真に驚き入るしだいである。

父君寅蔵氏は多年同窓会の幹部を務め上げ現在は監事の職にあり、長兄毅氏は昭和二十年本校卒業妹百合子氏も東洋女歯出と全く歯科医一家ともいふべき恵まれた家庭を営んでおられる。

今回の榮譽は、御父君はじめ御一家の繁榮を裏書きするもので、将来の御発展期して待つべきである。重ねて御祝辭を申述べらるしだいである。

(近藤三郎記)

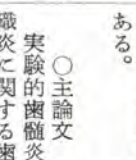
一致をもつてめでたく同大学教授会を通過、越えて七月十一日付にて輝かしき学位記を受領された。

誠に慶賀の至りに堪えない。資性稀に見る温厚なる紳士型、この人のどこにあんな燃ゆるが如き熱意が潜んでいるかと思ふ程の熱血漢である点、真に驚き入るしだいである。

父君寅蔵氏は多年同窓会の幹部を務め上げ現在は監事の職にあり、長兄毅氏は昭和二十年本校卒業妹百合子氏も東洋女歯出と全く歯科医一家ともいふべき恵まれた家庭を営んでおられる。

今回の榮譽は、御父君はじめ御一家の繁榮を裏書きするもので、将来の御発展期して待つべきである。重ねて御祝辭を申述べらるしだいである。

(近藤三郎記)



杉 本 是 孝 君

杉本君は仙台市生、県立仙台第二中学校を昭和二十三年卒業、同年四月母校東京歯科大学に入学。秋田県六郷町に疎開授業を受け同地で終戦を迎えた。二十四年三月卒業、直ちに研究科に入学。補綴学教室に学び更に翌年口腔外科学教室に残り、二十六年三月研究科修了。郷里仙台に帰り仙台市立病院歯科医長として診療に従事しておられたが、さらに研究を進めるべく、東北大学医学部医化学教室に入室、正宗一教授(正宗三羽鳥、正宗白鳥、正宗三郎、正宗一

○主論文
実験的歯髓炎ならびに歯牙支持組織炎に関する歯科生理學的研究
他に参考論文六編略

父君は正氏は北海道札幌鉄道病院在職中アイヌ人の頭蓋の研究で学位を得られている。

若冠三十才にして学位を得られたことはもつて多とするに足るところであるが、なお向学心は炎と燃え本年四月よりは同大学第三解剖学教室に入室。組織化学の研究に専念しておられる由。ただただ感嘆あるのみ。

ただし、好漢惜しむらくはいまだ好配遇を得るに至らず、願わくば近い将来その方面にも創報がもたらされることを祈願して擲筆する。

(近藤三郎記)

の三氏の一人)の厳格な指導の下に研究を続けておられたが十数篇の研究論文が発表されるに至つた。

ことに同君の主論文「癌性腹水のK-K因子」は発表(最新医学十三卷十二号)以来多くの学者に引用され斯界の注目を浴びていることは特筆されるべきであらう。

前記論文を主論文とし、他に参考論文七篇を副えて東北大学医学部に学位請求中であつたが、正宗教授主査となられ、副査には武藤実雄(外科医学部長)赤崎兼義(病理)両教授が当られ、慎重審議の結果本年二月四日めでたく同教授会を通過、越えて三月二十日付榮ある学位記を授与された。

長年に亘る御努力に対し心からなる敬意を表し、謹んで祝福申し上げます。

父君は正氏は北海道札幌鉄道病院在職中アイヌ人の頭蓋の研究で学位を得られている。

若冠三十才にして学位を得られたことはもつて多とするに足るところであるが、なお向学心は炎と燃え本年四月よりは同大学第三解剖学教室に入室。組織化学の研究に専念しておられる由。ただただ感嘆あるのみ。

ただし、好漢惜しむらくはいまだ好配遇を得るに至らず、願わくば近い将来その方面にも創報がもたらされることを祈願して擲筆する。

(近藤三郎記)

父君寅蔵氏は多年同窓会の幹部を務め上げ現在は監事の職にあり、長兄毅氏は昭和二十年本校卒業妹百合子氏も東洋女歯出と全く歯科医一家ともいふべき恵まれた家庭を営んでおられる。

今回の榮譽は、御父君はじめ御一家の繁榮を裏書きするもので、将来の御発展期して待つべきである。重ねて御祝辭を申述べらるしだいである。

(近藤三郎記)

各地同窓のうごき

愛媛県支部

去る五月十日の北条市鹿島に於ける同窓会レクレーションは会者二十五名、洵に快適の会合でありました。

その名も鹿島：：我が代表鹿島俊雄氏の戦艦をこの鹿島神社に祈願すると共に一同ビールの満を引いて政談に、口角泡を飛ばすの盛会ででした。

昭和三十四年五月十四日

東歯同窓会愛媛県支部

中島 佐三

静岡県支部総会

毎年新緑薫る五月の定時総会を、参院選挙のため、本年は六月十三日十四日に亘り伊豆修善寺温泉新井旅館に於て開催。母校より榎本名譽会頭西村会頭、福島会長、加藤倉三教授を迎えて出席者四十五名に及ぶ盛況でした。鹿島新議員は御都合悪く又徳永支部長は総会前日自動車事故により右足を負傷され、残念乍ら席されませんでした。

四先生御臨席の上開会、森田福造副支部の挨拶、浅井幹事長会務、会計報告、議事に移り、会則一部改正会費増額の件を承認、次いで役員の改選を行い、支部長に徳永寅雄君、副支部長に森田福造君、丸山実太郎君が選任されました。終りに今回多年の研究により学位を受領された深沢一祐君、安原宗司君、岡本一夫君栗田春海君に対し記念品を贈呈し祝意を表しました。

講演に移り、榎本、西村、福島の三先生より同窓会、母校の近況を伺い、加藤教授より「歯科に於けるレ線診断について」と題して一時間半に亘り臨床に有益な御講演を伺いました。

休憩後一風呂浴び懇親の宴を地元土屋幹事司会で開催、参列十数名のサーブスで、なかなか雰囲気の良い懇談、例により興到れば隠し芸続出、獣を尽して宴を閉じました。

型十四日朝食後、榎本、西村、福島、森田副支部長同道でお帰りになりましたが、加藤先生は昨日に続き御講演、十一時を閉じました。

(浅井記)

出席者氏名(敬称略)
榎本光男、小川知二、五十嵐曜昭



佐藤俊一、堀江繁樹、土屋勝男、杉本幸、木村伯夫、遠藤茂、浅井政晶、大藤幸雄、外圭三、亀井仁、森田博道、徳永富士雄、浅井寿一、小山彦平、佐藤摩事、大内惣一郎、榎沢一祐、関口正太郎、平田棟一、木村幸丸、丸山実太郎、朝浪惣一、朝浪寛河村三省、児島久勝、益子敬四郎、田村清史、河村忠篤、大畑憲太郎、塩田一二、岡村一夫、安原宗司、平岡光一、佐塚孝一、大沢一康、藤原康功、森田福造、市川潔

福島県支部総会

去る五月十一日 奥村前学長とゆかり深き須賀川市において、血脇、奥村両先生の追悼会に引続き県支部総会が開催された。

母校からは同窓会白川幹事長、近藤教授の御参加があり、盛会であった。天下の名園牡丹園も折悪しくやや最盛期を過ぎていたが両先生を案内して御見学を願ひ、石井君の車で追悼会場にあてられた十念寺に着いた。

会場にはすでに萩原会長始め各地の代表が参集、奥村前学長夫人の御遺族も参加され、定刻午後一時持の読経にて追悼会が始まる。

本堂に響き渡る読経の声、鐘の音に一同せきとして声なく、各自両先生の御威徳を偲びつつ経文に聞き入ること三十分。

読経終つて萩原会長追悼の辞を捧げる。言々々々両先生の御威徳を讃えて余す所なく、一同の胸にありし日の両先生の面影が再び甦るのである。かくて焼香に移り各自各々座して御焼香を終る。

も萩原会長以下大部分留任と決り、新たに数名の新人に御加入願うこととして総会を終了。

ついで、白川幹事より鹿島俊雄君の選挙に関する情況報告、注意事項等の御話があり、各地支部よりの情勢報告があり、今後とも各自全力を挙げて当選に努力することを誓つて会を閉じ、懇親会場に移る。



懇親会場の大広間には、すでに須賀川市長、奥村前学長夫人御遺族二名が到着して居られた。

当市送り抜きの美妓による舞踊によつて会が始まり、地方色豊かな芳醇と山海の珍味とまでは行かなくとも特色のある料理が盛られ母校よりはるばる御参加願つた両先生の御満足を得たことは主催者として本快至極と存するしだいである。酒が廻るにつれ両先生のお膳の上は盃の山となり御返しになるのに大分お骨折りの様子であつた事も誠にうれしき限りであつた。

飲の尽きるを知らないうちに時間は経ち、各地方より参加された各位は列車の時間に追われ尽きぬ名残り

を惜しみつつ支部ならびに母校の万歳を唱和、六時半散会惜しき袂を分かつた。

母校より御参加の両先生、各地支部を代表して参加された同窓各位に対し厚く御礼申し上げます。

(遠藤義平記)

去る六月の参院選でわれわれの同窓鹿島俊雄君が、歯科界から推されて当選の栄を担われたことは御同慶の至りである。

しかし、選挙から一ヶ月半の間に、不幸にも公職選挙法違反容疑として司直の追及を受けた人々は二、三にとどまらなかつた。まことに遺憾の極みである。

熱意を以つて、歯科界の当面している数々の壁を打ち破り、国民歯科医療に光明を点すべく総てを捨て、鹿島選挙に挺身された方々が、熱意のあまり容疑を受けられるに至つたものと想像される。

一部、日刊新聞紙上では、二、三の当選、落選候補者と共に、違反の代表的なものを取りあつたものもあるが、世上伝えられる程の選挙資金があつた等もなく、公明選挙を目標としたわれわれとしては心外でもある。

選挙通の話では、この場合最も心を痛めるのは当選した人だとのことであるが、鹿島参議院議員をして後顧の憂いなく堂々と国民福祉のため、その優れた政治性と果敢な行動性を發揮して、活躍を御願ひしたいものである。

鹿島俊雄後援会の真の活動はこれから本番である筈である。会員各位の御声援、御助力を、

無 影 燈

クラス会便り

五十鈴会

参議院選挙には何かと諸兄に御面倒をお願いしたが、多くの方より御面後援頂き有難う御座居ました。五十鈴会より本部へ金一封寄附しておきました。

さて今秋に行われます第十回タラス総会の件につきまして、先般ハガキにて御通知致しておきましたが在京有志により「〜と協議した結果左記の様に決定致しましたから今年は記念すべき十回目でもありますので皆さん振つて御参集下さい。」

一、日時 十一月二日(月)午後三時現地集合

(注) 三日(文化の日)ではありません

一、場所 熱海(小公園前)立花旅館 一泊

一、会費 三千円(交通費は含まず)

一、招待 齊藤、近藤、長尾三教授(クラス主任をして頂いた先生)御出席の予定

尚今回は西山、甲斐両君の御尽力による事を感謝します。

松尾(宗)記

十年会

恒例の春期家族同伴旅行会を五月十日、熱海のお宮の松前大月ホテルにて開催した。

大阪の松浦君夫妻、京都の柳君夫妻、奈良の平井君等遠路の出席者を得て、全員が一つの家族の様な親しみを以て、快談出来たのは嬉しい限りです、何時も十年会は他のクラス会の連中から羨望の目で見られてゐます。此度は五木田、水野両君の御尽力を感謝します。



紀行文の代りとして関西俳壇ホトリギス派の巨匠、柳寛郎君から寄せられた俳句を掲載することにした。春汐の波騒いぢき泊りかな 梅雨近き熱海の日の出真赤なる 夏みかん買うやお宮の松の辺に 短夜や熱海銀座の人となり 大島の噴煙の上飛ぶ春の旅 鶯邸

出席者 柳義吉夫妻、松浦寅雄夫妻、水野義夫夫妻、間野英男夫妻、平井義美、鈴木録二、佐藤泰三並に令息、小西憲作、竹下忠平、五木田三郎、石原文海、野村保雄、中川勝彦、久保田正一、白須賀二郎の諸君二十名であつた。秋期旅行会は京都と決定、柳君を中心として、松浦、平井両君の応援を得て盛大に開催し京都名物の精進料理や日本一の京都松茸の味と香りに旅情をそそろうと言ふもの、今度は九州の皆様も挙つて御参加下さい、会期は、十月中旬過ぎ頃となるでせう。

十四会

写真説明 前列右より松浦夫人、間野夫人、水野夫人、柳夫人、久保田、中列松浦、平井、白須賀、野村後列鈴木、小西、竹下、間野、水野五木田、佐藤、柳、中川諸氏(写真久保田君提供)

幽の鹿島の選挙戦も終盤戦に入り全般的に底調を晦されてゐる参議員戦は前回より立候補者も少ないとの事会員は更に結集して一層の努力を望む次第である。前回竹中氏の東京得票数は案外に少なかったのに鑑み今回は万全の対策のもとに連日連夜の作戦の効果が開票に依つて証明され、地方各位の御奮闘に答へられる様折つてゐる。

十四会参拾年の記念会誌は私の選挙運動の余暇を作つて編輯する事五度びに及んだが尙脱字脱稿がありきおい込んだ努力も満足する会誌にならなかつた事をお詫びすると共に御訂正御記入を戴きたい。会員名簿中Aの部安東猛 杉並区井荻二ノ二三田方Yの部、吉田弘 渋谷区円山町二九。両君に対しては御寛恕の程、朗報!!安東猛君は五月十八日附をもつて母校松宮誠一教授のもとで鋭意研究を続けて居られた、「歯槽膿漏症の初期変化に関するレントゲン学的並に病理組織的研究」が完成され榮譽ある博士号を受与されました御本人御家族のお喜びはもとより十四会の名譽として御報告申し上げ、同君の今後の御活躍と御発展を祈ります。

の会員諸氏から千円の会誌代を領収致して居ります。現在住所が判明致して居ります会員数は九七名でありまして全会員が御納入戴きますと次期三十五周年にも会誌の発行が無料で出来るかと存じます。近々役員会を開催して決算の承認を願つてから此の会報に報告させて戴きますが各位の御協力に依つて再度の発行は可能でありますので役員会に協議題として提出の出来ます様御協力下さる様至急御領い申し上げます。役員会の協議次第については順次会報を通じて御報告致しますから御期待下さい。

三十五周年はオリンピック開催と云ふ好条件でもあり全会員の御出席を期待して計画を進めたいと存じます。尚私もお蔭様で今回も高票当選を得ました各位の御支援を感謝し五日便りと致します。

昭和三十四年、五、二九日(高橋記)

逝去 会員

金山 璋氏10 岡崎市 言、五、〇
倉地 秀臣氏(3) 新宿区 言、五、三
芦刈 義一氏 大分県 言、五、三
村越 一雄氏7 目黒区 言、五、元
藤田 仁助氏 言、六、一
小田 五郎氏7 北海道 言、六、三
小林 武一氏 栃木県 言、六、三
忠隈 賢氏 川口市 言、六、一
森沢 修一氏4 奈良県 言、六、六
後藤 晨氏 福岡県 言、六、六

現住所変更(敬称略)

赤沢 貫三 4 神戸市灘区曾和町二ノ二〇
菅野 将雄(7) 二松本市龜谷一ノ二四九ノ二
橋本 京一(19.9) 中野区本郷通三ノ二四九立正交成会 附属交成病院歯科

村上 慧(32)	室蘭市三崎日鋼ア
神谷 昭夫(34)	小田原市幸一ノ九
近藤 三郎	東京都北多摩郡保谷町下保谷一六八
岡田 一郎	六〇三 六八号館
志村 和彦(29)	四子市山ノ根三八
岡崎 悟(33)	長野市西鶴賀町一〇五
小林 温雄(18.9)	新潟県亀田局区内袋沢
内山 幹也(13)	札幌市北二十三条西九丁目一八
岩田 淳(31)	愛知県稲沢市日本住宅公園六一号棟三〇五号
山口 雅男(20)	高知市梅ノ辻五七
住井 泰之(34)	江川市小岩四ノ一八
宮坂 正俊(34)	横濱市金沢区谷津町五八ノ二
北村 悟(28)	相模原市上鶴間字相模大野住宅七四ノ八
松井 隆弘(7)	板橋区大谷口町一ノ四八
後藤 豊寿(31)	世田谷区深沢町一ノ九
長谷川 豊夫(13)	名古屋市中区南伊勢町二ノ一
西岡 寿 3	渋谷区代々木三ノ五
関口 春也(32)	茅ヶ崎市新町五四
奥 鉄也(32)	津山市駅前一八一
田代 正雄 1	茨城県市辻堂北町二
高津 正直(29)	三三九 中野区上高田二ノ